

平成28年8月度定例部会（部会＋研修会）議事録

日時 平成28年8月20日(土) 13:30～17:00
開催場所 公益社団法人日本技術士会 近畿本部 会議室
出席者 28名 司会進行 幹事 田代芳樹 徳永浩二

1. 開会にあたり、間島部会長からの挨拶あり。

＜部会長挨拶の要旨＞ 『本日も多数の参加を頂きありがとうございます。私から2つのお話をさせていただきます。

1つ目は、将来動向として「IoTの技術や適用についてのセミナー」が活発に行われております。生産性向上と新たなビジネス展開の2つの視点があるようです。是非、これからも注目下さい。

2つ目は、身近なお話として、ダイハツ工業が、8/1付けにてトヨタの完全子会社となり、109年前に創業された関西を代表する企業の上場が一つなくなることになりました。時の流れを感じます。最後に、本日は中部から特別参加があります。日本技術士会の情報発信オープン化への一環として、今後も技術士会活動の情報発信をしていきたいと思っております。よろしくお祈りします。』

2. 参加者紹介：初参加者：2名（敬称略）高木仁、外山榛一

：「今回オープン参加」：2名（敬称略）石上俊弥、合田要祐

3. 研修会（13:35～16時頃、質疑応答含む）

・講師：鶴田 明三（つるた ひろぞう）

技術士（経営工学部門）、三菱電機(株)先端技術総合研究所

・演題：『これでわかった！超実践 品質工学』

参考図書：「これでわかった！超実践 品質工学」（日本規格協会） 講師著

・概要：設計品質の評価・改善に品質工学（タグチメソッド）を活用しようとする、実践上いくつかの



ハードルがある。その1つは個別の事例ごとに機能や誤差因子（ノイズ）といった技術的な考察や思考が必要とされる点である。これは統計手法や実験計画法のような手順の問題ではないためである。従来の入門書・解説書やセミナーでは概要や一般的手順が分かった気になるものの、実際に自分の仕事にどのように生かせばよいのか、少し困ったときにどのようなガイドラインに従えばよいのかはほとんど明文化されていなかった。本稿では三菱電機の設計品質全社活動で培った、実践的品質工学の要点を紹介する。

＜講義の様子等＞ 写真の通り、会場満杯状態での聴講でした。内容は、わかりやすく、【・品質工学と適用の課題・三つの「壁」・機能性評価の三種の神器・他の経営工学手法との組み合わせの有効性】等について講義をいただきました。特別参加二名あり、意義深い講演でした。質問は、概念から実用まで、幅広く有意義でした。

＜鶴田様の講演について＞ 鶴田様も、【技術士を目指そうin大阪】セミナーの卒業生です。セミナー後、鶴田様は技術士に合格されました。講演内容にも感心しましたが、技術士人材育成という観点からも、感慨深い講演でした。【技術士を目指そうin大阪】は、経営工学部会が新春に開催継続しているセミナーです。

4. 技術士会／近畿本部からの連絡及び活動報告事項

＜活動実績＞

- ① H28年度 技術士 二次試験実施。（7/18 阪大／豊中と大阪学院大学にて）
- ② 近畿本部／兵庫県支部設立 役員が確定。
- ③ 近畿本部／協賛団体加入のお願い。
- ④ 納涼ビアパーティ実施（7/21 の夕方）

<活動予定>

- ① 近畿本部合同部会研修セミナーについて
 - ② 技術士を目指そうin大阪について
 - ③ 10月度の「部会+研修会」は、10/8（土）近畿本部会議室で実施。
講演者：太洋工業株式会社 埴泰之氏。
 - ④ （12月は、アサヒビール株式会社 美馬氏からのご発表の方向で調整中。）
 - ⑤ 日本経営工学会との連携について、お知らせあり。
5. 自由発言・幹事会報告・その他
賛助会員の方、及び初参加の方々からの、新鮮なご意見を頂戴しました。（今後の運営に役立てます。）
6. 閉会の挨拶（担当幹事 徳永）
本日の講演にもありましたが、技術士として、技術士とは別の組織での貢献は益々重要になっています。公益の確保・家族と自身の健康を大切にしながら、10月・12月の経営工学部会で、元気にみなさん、再会致しましょう。
- 以上（文責：徳永）